

住宅マスタープラン策定に向けたアンケート調査

報告書

令和 7 年 8 月

1. アンケート調査の目的

地域住民の住宅に関する意向やニーズを確認し、収集したデータを基礎資料として住宅マスタープランの住宅施策に反映することを目的にアンケート調査を実施します。

2. アンケート調査の概要

(1) 対象者

住民基本台帳より、町内に居住する 20 歳から 65 歳の世帯主を対象に調査を実施。

(2) 調査件数

2,000 件（世帯）

(3) 配布・回収方法

郵送により配布し、回収は返信用封筒または、WEB 回答のどちらかを選択

(4) 記入方法

無記名方式による回答

(5) アンケート期間

2025 年 7 月 16 日（水）発送から 2025 年 7 月 28 日（月）まで

(6) 回収率

26.1%（521/2,000 通）

うち、郵便による回答：16.7%（334/2,000 通）

WEB による回答：9.4%（187/2,000 通）

3. アンケートの設問

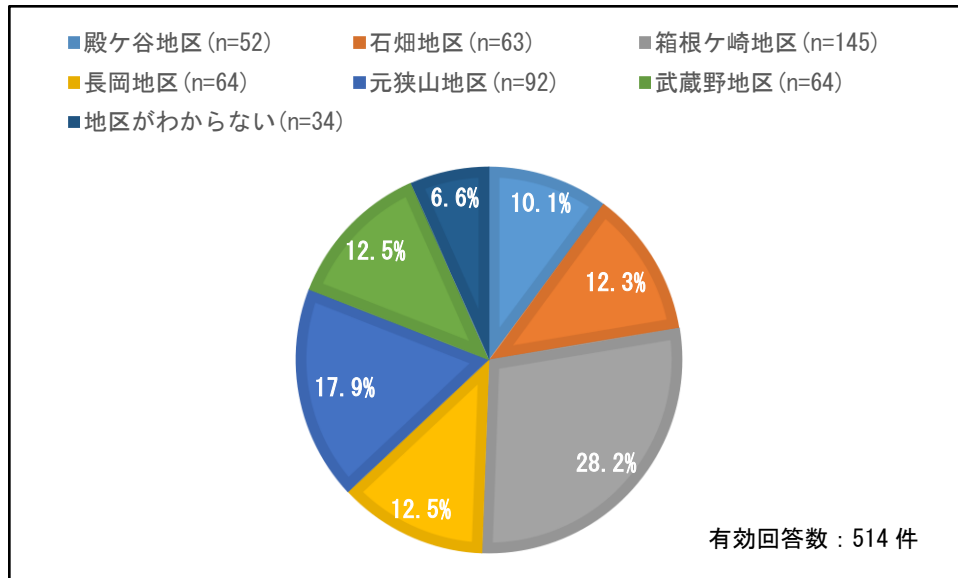
以下の設問でアンケートを実施しました。

1. ご自身・ご家族について	設問 1	お住まいの地区はどこですか。
	設問 2	あなた（宛先人）の年齢を教えてください。
	設問 3	何人家族ですか。
	設問 4	どなたと一緒に住んでいますか。一緒に住んでいる家族について教えてください。
	設問 5	子育て世帯の方にお聞きします（18歳以下のお子さんがある世帯）。お子さんの年齢区分はどれに当たりますか。
	設問 6	将来、親との同居・近居を考えていますか。
	設問 7	家族全員の年収はどのくらいになりますか。
2. お住まいについて	設問 8	今の住まいの満足度はどのくらいですか。
	設問 9	今の住まいは、どれに該当しますか。
	設問 10	今の住まいは、いつ建てた建物ですか。
	設問 11	今の住まいの広さを教えてください。
	設問 12	今の住まいの設備について教えてください。環境に配慮した設備はありますか。
	設問 13	今の住まいにバリアフリー設備はありますか。
3. 災害への備えについて	設問 14	自然災害への備えは行っていますか。
	設問 15	昭和56年以前に建てた戸建ての持ち家にお住まいの方にお聞きします。瑞穂町では地震対策として、旧耐震基準の住宅（昭和56年5月31日以前に着工）を対象に、耐震診断や耐震改修工事を行う場合に、助成金（約1／2）を交付しています。この助成金を活用してお住まいの診断や改修を行いたいですか。
4. 今後の住まい方について	設問 16	今後の住まい方（居住意向）についてお聞きします。今の住まい（家）にこれからも住み続けたいですか。
	設問 17	設問 16 で「③どちらとも言えない」「④転居したい」とお答えいただいた方にお聞きします。転居するなら戸建てか、マンションなどの共同住宅どちらがよいですか。
	設問 18	設問 16 で「③どちらとも言えない」「④転居したい」とお答えいただいた方にお聞きします。転居したい理由について当てはまる選択肢すべてに○を付けてください。
5. 空き家について	設問 19	近年、空き家問題が話題となっています。身近に空き家問題を感じていますか。
	設問 20	ご自宅の周辺で将来、空き家になりそうな建物はありますか。
	設問 21	町内で周辺の住宅環境に悪影響を及ぼしそうな空き家を見たことはありますか。
	設問 22	町で空き家問題に取り組むうえで、何が有効だと思いますか。
	設問 23	周知・啓発活動を行う場合、有効な媒体は何だと思いますか。
	設問 24	瑞穂町は NP0 法人空家・空地管理センターと連携し、空き家所有者向けに総合相談窓口（☎0120-336-366）を設置しています。困りごとがあった際、どのような相談をしたいですか。
	設問 25	空き家としない、または、空き家となった住宅を適切に管理していくためには、何が有効だと思いますか。
6. その他	設問 26	瑞穂町の今後の住環境（住みやすい環境づくり）を考えるうえで、何が大事だと思いますか。
	設問 27	自由意見

4. アンケート集計（単純集計）

設問1 お住まいの地区はどこですか。

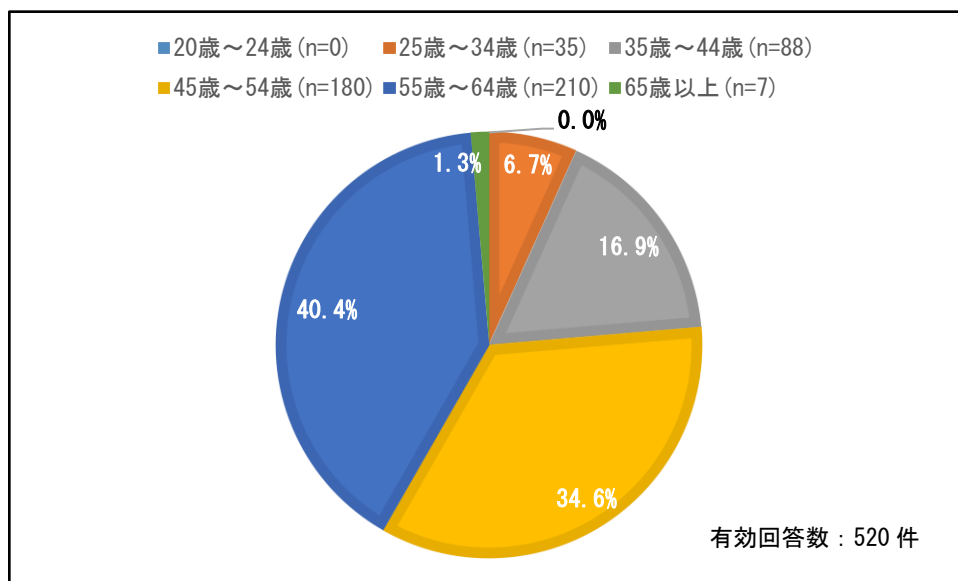
有効回答数 514 件のうち、住まいの地区で最も多いのは、「箱根ヶ崎地区（145 件）」の 28.2%、次に「元狹山地区（92 件）」の 17.9%、「長岡地区（64 件）」と「武蔵野地区（64 件）」の 12.5%の順となっています。



※四捨五入により、合計が 100%にならない場合があります。

設問2 あなた（宛先人）の年齢を教えてください。

有効回答数 520 件のうち、回答者の年齢で最も多いのは、「55 歳～64 歳（210 件）」の 40.4%、次に「45 歳～54 歳（180 件）」の 34.6%、「35 歳～44 歳（88 件）」の 16.9%の順であり、現役世代で年齢を重ねるごとに回答率が高い傾向にあります。

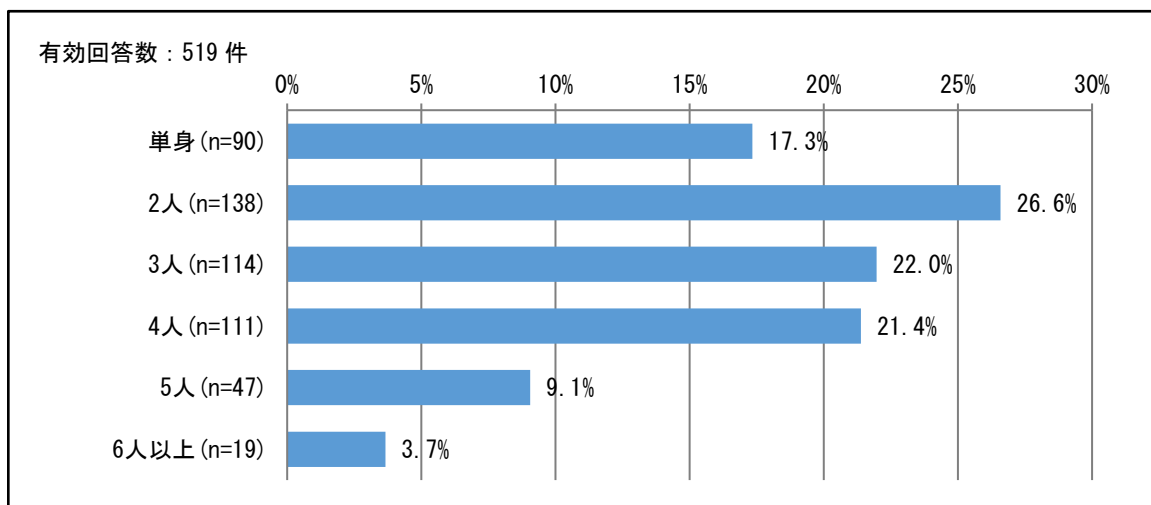


※四捨五入により、合計が 100%にならない場合があります。

設問3 何人家族ですか。

有効回答数 519 件のうち、世帯人数で最も多いのは、「2 人 (138 件)」の 26.6%、次に「3 人 (114 件)」の 22.0%、「4 人 (111 件)」の 21.4%の順となっています。

なお、「単身 (90 件)」は、17.3%で、2 人までの小規模世帯 (228 件) の割合が 4 割を超えています。

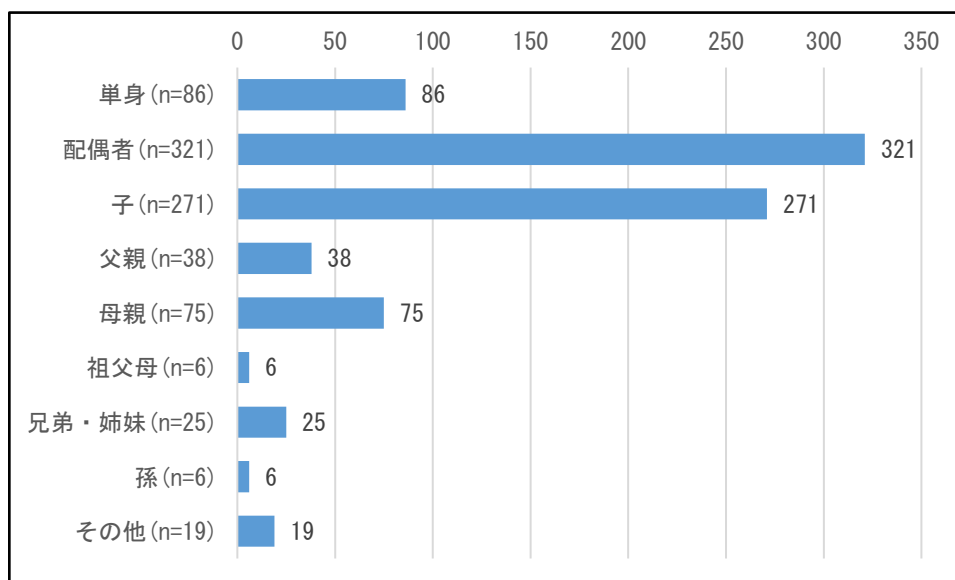


※四捨五入により、合計が 100%にならない場合があります。

設問4 どなたと一緒に住んでいますか。一緒に住んでいる家族について教えてください。

あなた (宛先人) の視点に立って、当てはまる選択肢すべてに○を付けてください。

アンケート回答数 521 件のうち、親と同居している世帯は 113 件、祖父母と同居している世帯は 6 件と世帯の核家族化が進行していることがわかります。

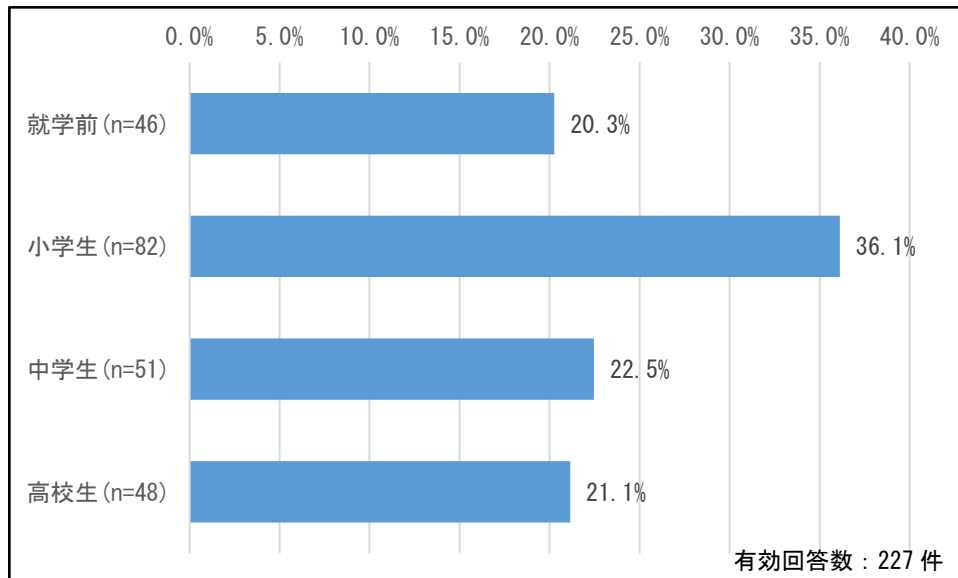


設問5 子育て世帯の方にお聞きします（18歳以下のお子さんがある世帯）。

お子さんの年齢区分はどれに当たりますか。当てはまる選択肢すべてに○を付けてください。

回答者数 160 人（有効回答数 227 件）のうち、子どもの年齢区分で最も多いのは、「小学生（82 件）」の 36.1%、次に「中学生（51 件）」の 22.5%、「高校生（48 件）」の 21.1%の順となっています。

なお、単純ではありませんが、年齢区分の件数を区分年数で割り戻した場合、就学前 6.6 件/年（46 件/7 年）、小学生 13.7 件/年（82 件/6 年）、中学生 17 件/年（51 件/3 年）、高校生 16 件/年（48 件/3 年）となり、少子化が進行していることがわかります。

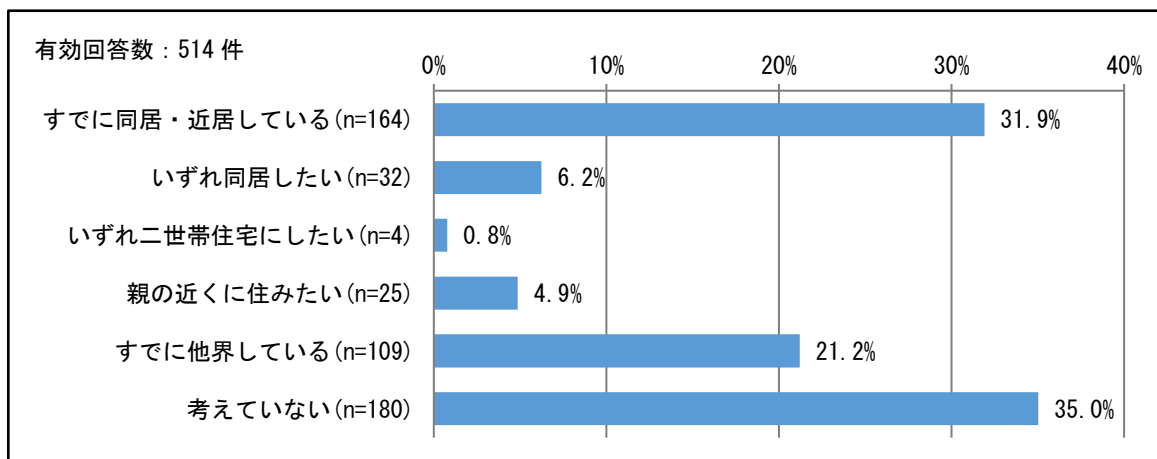


※アンケート回収数 521 件のうち、無回答（125 件）と選択肢①いない（236 件）を除外した 160 人を回答者数として、160 人の回答数 227 件を有効回答数として整理しました。

設問6 将来、親との同居・近居を考えていますか。

有効回答数 514 件のうち、将来、親との同居・近居で最も多いのは、「考えていない（180 件）」の 35.0%、次に「すでに同居・近居している（164 件）」の 31.9%、「すでに他界している（109 件）」の 21.2%の順となっています。

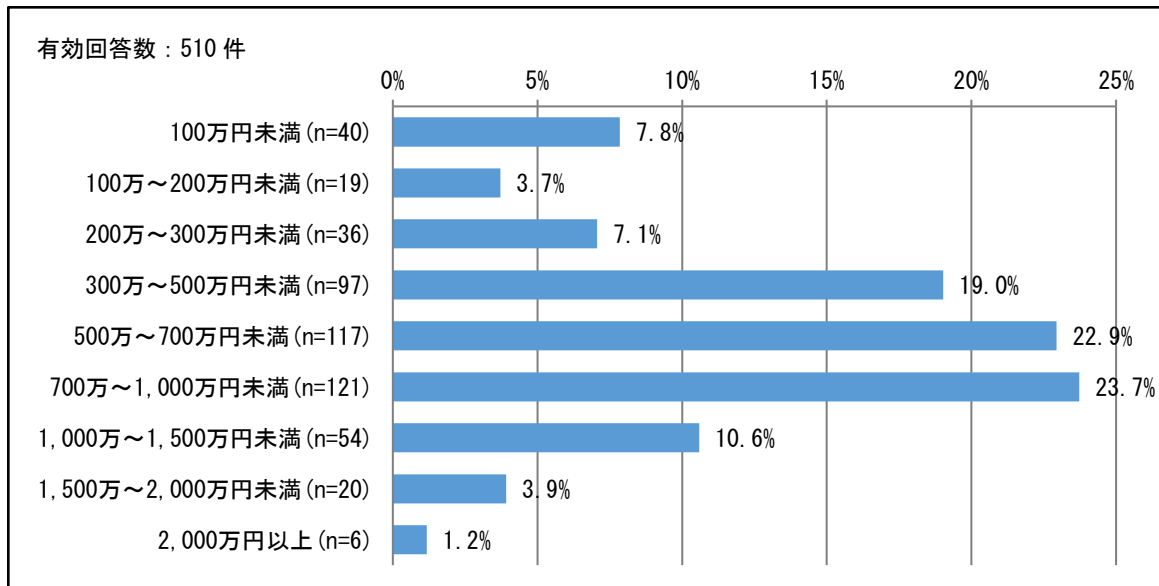
なお、「設問4の一緒に住んでいる家族」において、親と同居している世帯は113件でした。



設問7 家族全員の年収はどのくらいになりますか。

有効回答数 510 件のうち、世帯年収で最も多いのは、「700 万から 1,000 万円未満(121 件)」の 23.7%、次に「500 万～700 万円未満 (117 件)」の 22.9%、「300 万～500 万円未満 (97 件)」の 19.0%の順となっています。

なお、世帯年収を 300 万円未満、300 万～700 万円未満、700 万円以上の 3 区分でみると、300 万円未満の世帯 (95 件) は 18.6%、300 万～700 万円未満の世帯 (214 件) は 41.9%、700 万円以上の世帯 (201 件) は 39.4%となります。

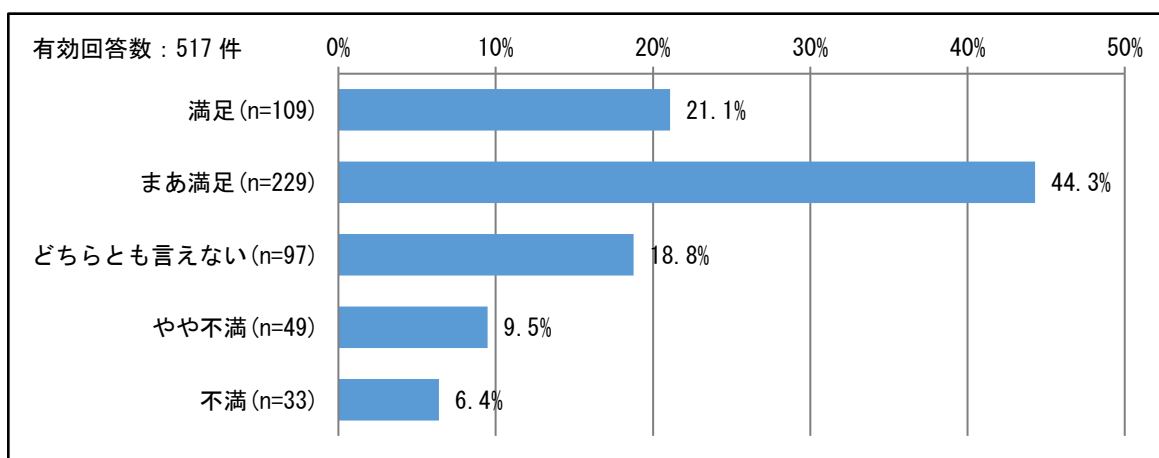


※四捨五入により、合計が 100%にならない場合があります。

設問8 今の住まいの満足度はどのくらいですか。

有効回答数 517 件のうち、住まいの満足度で最も多いのは、「まあ満足 (229 件)」の 44.3%、次に「満足 (109 件)」の 21.1%、「どちらとも言えない (97 件)」の 18.8%の順となっています。

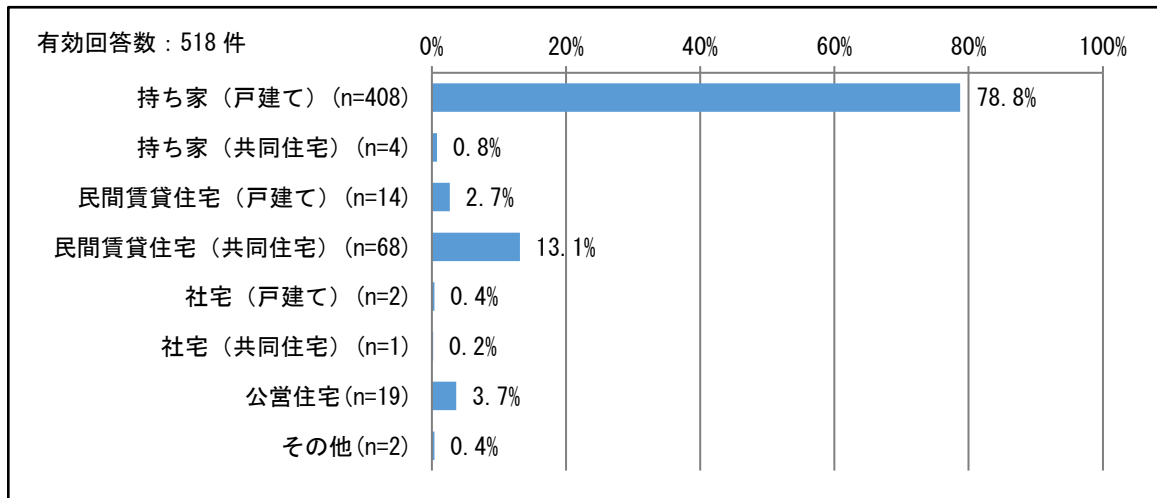
なお、「不満 (33 件)」は一番低い回答で 6.4%でした。



※四捨五入により、合計が 100%にならない場合があります。

設問9 今回の住まいは、どれに該当しますか。

有効回答数 518 件のうち、住まい方で最も多いのは、「持ち家（戸建て）（408 件）」の 78.8%、次に「民間賃貸住宅（共同住宅）（68 件）」の 13.1%、「公営住宅（19 件）」の 3.7%の順となっています。

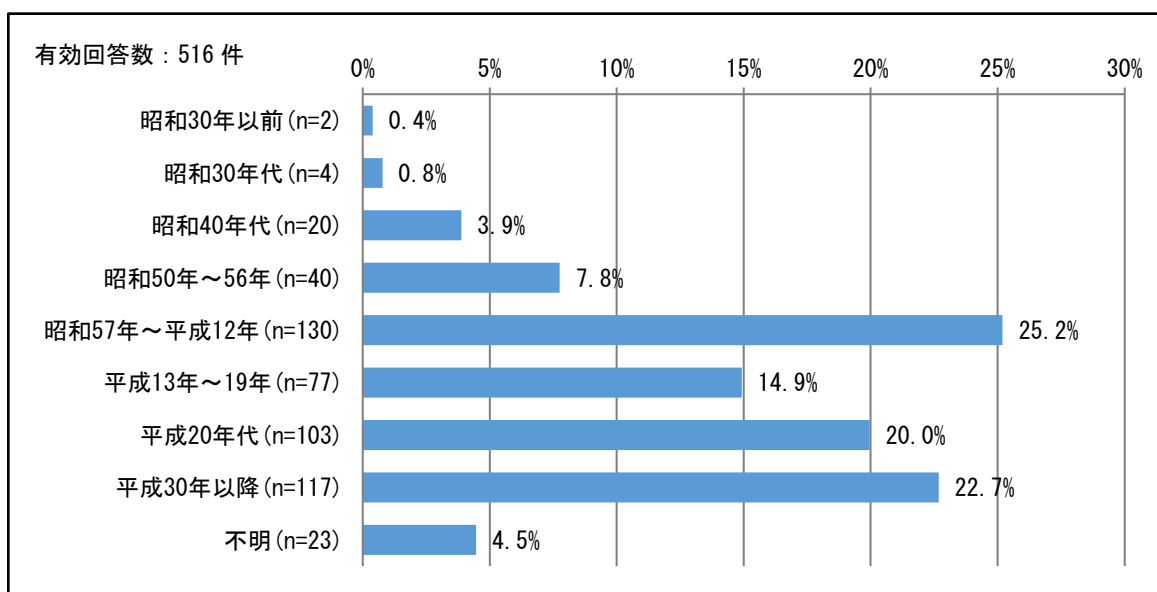


※四捨五入により、合計が 100%にならない場合があります。

設問10 今回の住まいは、いつ建てた建物ですか(持ち家でない方はおおよそで構いません)。

有効回答数 516 件のうち、住宅を建てた時期で最も多いのは、「昭和 57 年～平成 12 年（130 件）」の 25.2%、次に「平成 30 年以降（117 件）」の 22.7%、「平成 13 年～19 年（77 件）」の 14.9%の順となっています。

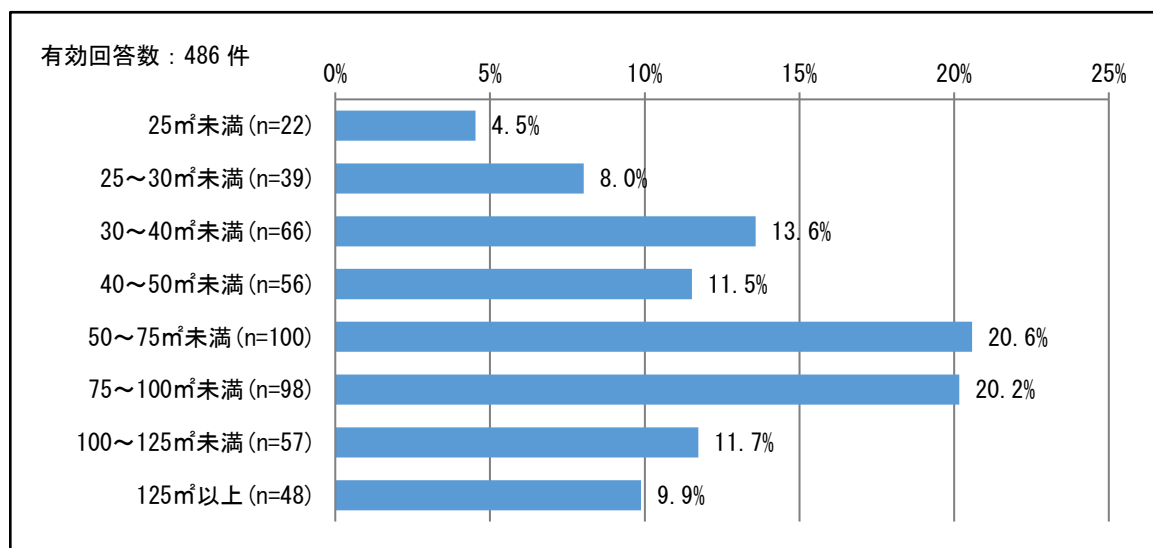
建物の建築時期を建築基準法の耐震基準でみると、昭和 56 年以降に建てた住宅が対象となる新耐震基準で建てられた住宅（427 件）の割合が 82.8%であり、このうち、さらに耐震基準が厳しくなった 2000 年基準で建てられた建物（297 件）の割合は 57.6%と、瑞穂町の住宅の多くは、地震に強い新しい住宅で構成されていることがわかります。



※四捨五入により、合計が 100%にならない場合があります。

設問 11 今の住まいの広さを教えてください。

有効回答数 486 件のうち、住宅の広さで最も多いのは、「50～75 ㎡未満（100 件）」の 20.6%、次に「75～100 ㎡未満（98 件）」の 20.2%、「30～40 ㎡未満（66 件）」の 13.6%の順となっています。

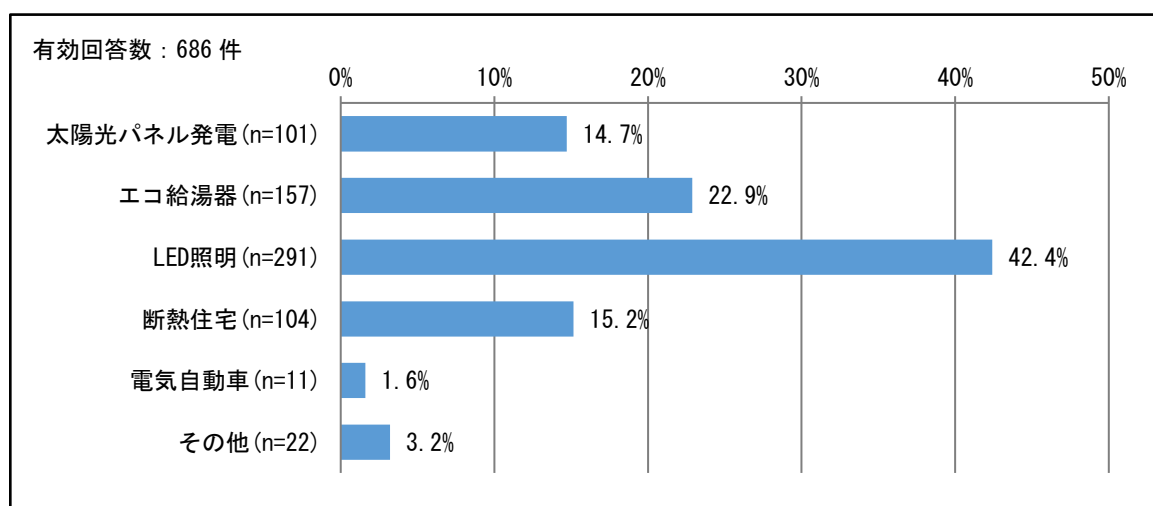


設問 12 今の住まいの設備について教えてください。

環境に配慮した設備はありますか。当てはまる選択肢すべてに○を付けてください。

回答者数 374 人（有効回答数 686 件）のうち、環境に配慮した住宅設備状況で最も多いのは、「LED 照明（291 件）」の 42.4%、次に「エコ給湯器（157 件）」の 22.9%、「断熱住宅（104 件）」の 15.2%の順となっています。

また、「その他」の意見として、蓄電池、節水シャワーヘッド、二重窓などの意見が寄せられました。



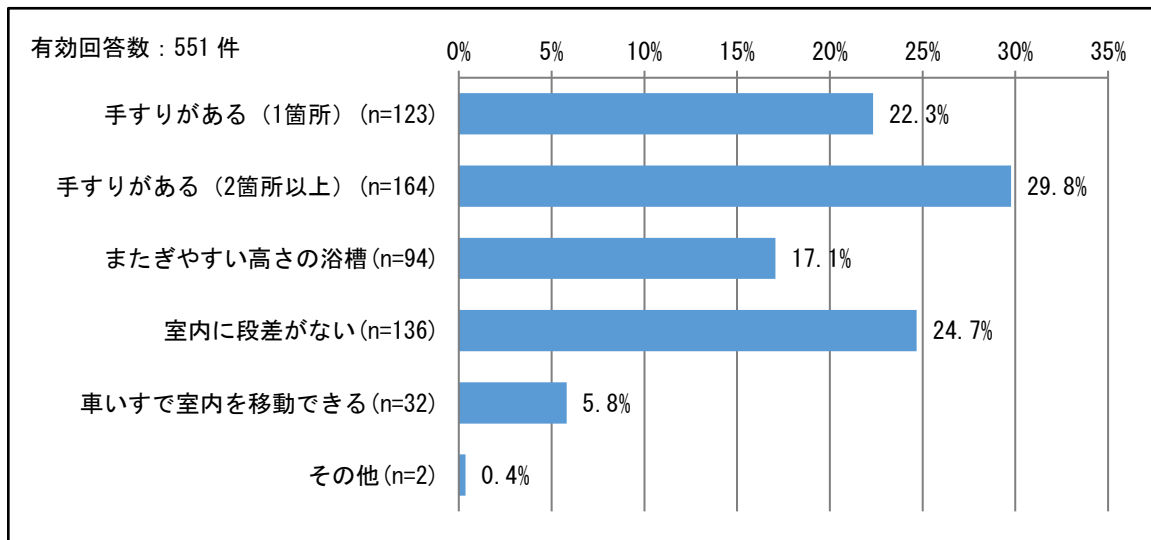
※アンケート回収数 521 件のうち、無回答（37 件）と選択肢⑦設備が「ない」（110 件）を除外した 374 人を回答者数として、374 人の回答数 686 件を有効回答数として整理しました。

設問 13 今の住まいにバリアフリー設備はありますか。

当てはまる選択肢すべてに○を付けてください。

回答者数 343 人（有効回答数 551 件）のうち、住宅のバリアフリー設備で最も多いのは、「手すりがある（2箇所以上）（164 件）」の 29.8%、次に「室内に段差がない（136 件）」の 24.7%、「手すりがある（1 箇所）（123 件）」の 22.3%の順となっています。

また、「その他」の意見として、スロープの意見が寄せられました。



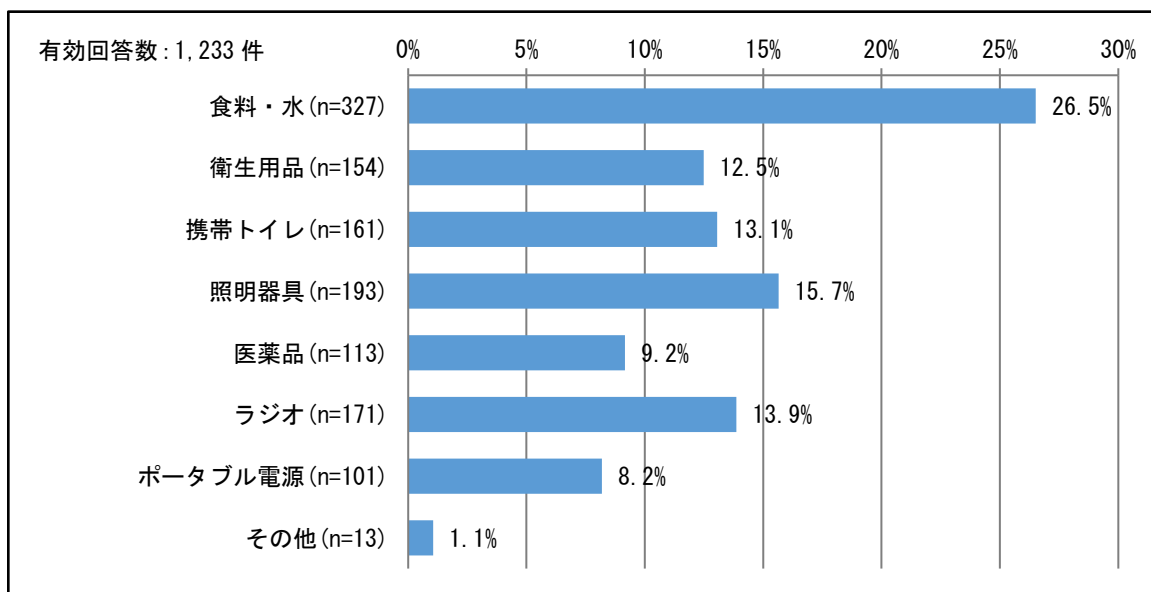
※アンケート回収数 521 件のうち、無回答（7 件）と選択肢⑦設備が「ない」（171 件）を除外した 343 人を回答者数として、343 人の回答数 551 件を有効回答数として整理しました。

※四捨五入により、合計が 100%にならない場合があります。

設問 14 自然災害への備えは行っていますか。

備蓄や備えているもので、当てはまる選択肢すべてに○を付けてください。

回答者数 409 人（有効回答数 1,233 件）のうち、自然災害への備えで最も多いのは、「食料・水（327 件）」の 26.5%、次に「照明器具（193 件）」の 15.7%、「ラジオ（171 件）」の 13.9%の順となっています。また、「その他」の意見として、キャンプ用品、浄水器、ガスコンロなどの意見が寄せられました。



※アンケート回収数 521 件のうち、無回答（6 件）と選択肢⑨「備えていない」（106 件）を除外した 409 人を回答者数として、409 人の回答数 1,233 件を有効回答数として整理しました。

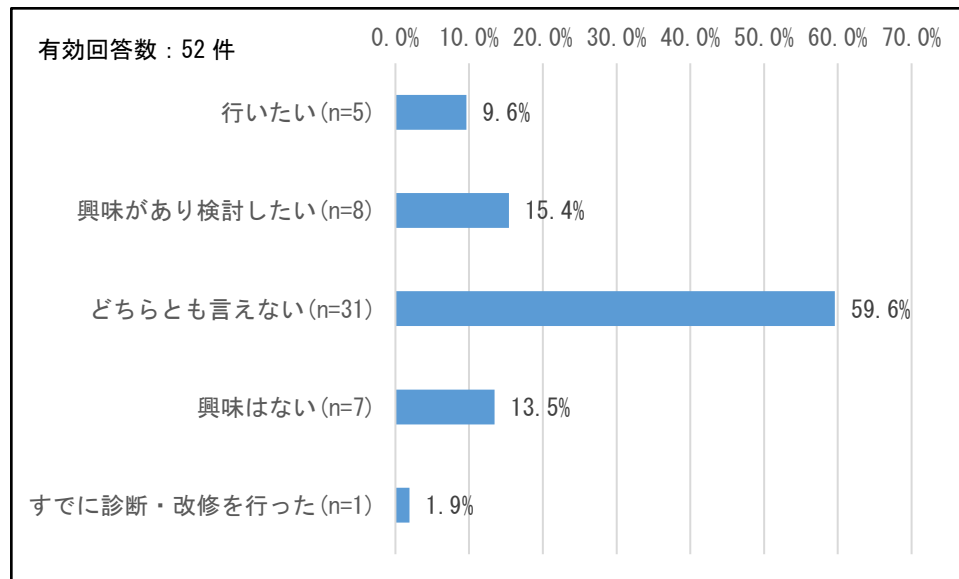
※四捨五入により、合計が 100%にならない場合があります。

設問 15 昭和 56 年以前に建てた戸建ての持ち家にお住まいの方にお聞きします。

瑞穂町では地震対策として、旧耐震基準の住宅(昭和56年5月31日以前に着工)を対象に、耐震診断や耐震改修工事を行う場合に、助成金(約1/2)を交付しています。
この助成金を活用してお住まいの診断や改修を行いたいですか。

有効回答数 52 件のうち、耐震診断・耐震改修工事の意向について最も多いのは、「どちらとも言えない (31 件)」の 59.6%、次に「興味があり検討したい (8 件)」の 15.4%、「興味はない (7 件)」の 13.5% の順となっています。

なお、耐震診断・耐震改修工事を「行いたい (5 件)」は 9.6%でした。



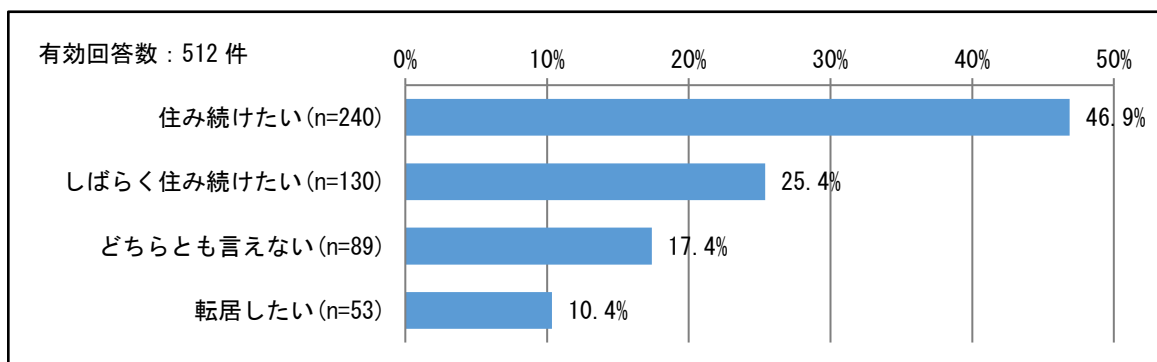
※設問 9 で「①持ち家 (戸建て)」、設問 10 で「①～④昭和 56 年以前」と回答した方 (54 件) から設問 15 で「無回答」2 件を除外した 52 件を有効回答数とします。

設問 16 今後の住まい方(居留意向)についてお聞きします。

今の住まい(家)にこれからも住み続けたいですか。

有効回答数 512 件のうち、居留意向で最も多いのは、「住み続けたい (240 件)」の 46.9%、次に「しばらく住み続けたい (130 件)」の 25.4%、「どちらとも言えない (89 件)」の 17.4%の順となっています。

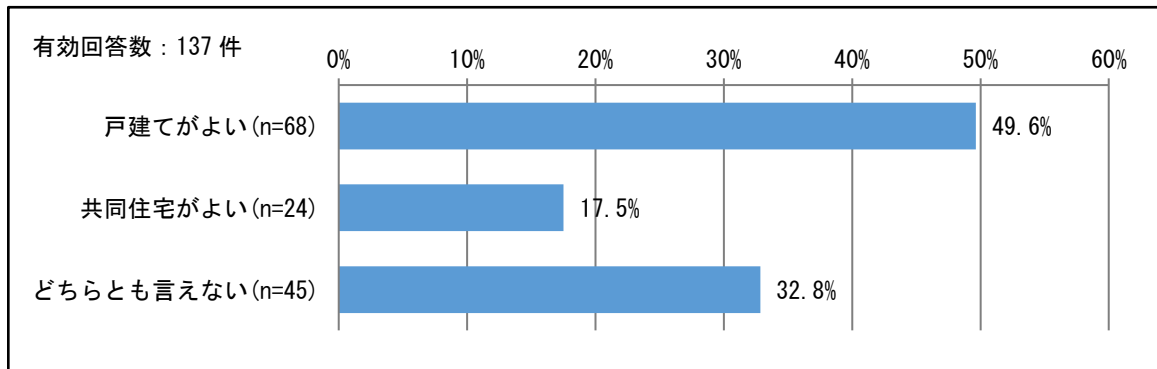
なお、「転居したい (53 件)」は 10.4%でした。



※四捨五入により、合計が 100%にならない場合があります。

設問 17 設問 16 で「③どちらとも言えない」「④転居したい」とお答えいただいた方にお聞きします。
転居するなら戸建てか、マンションなどの共同住宅どちらがよいですか。

有効回答数 137 件のうち、転居意向で最も多いのは、「戸建てがよい (68 件)」の 49.6%、次に「どちらとも言えない (45 件)」の 32.8%、「共同住宅がよい (24 件)」の 17.5%の順となっています。

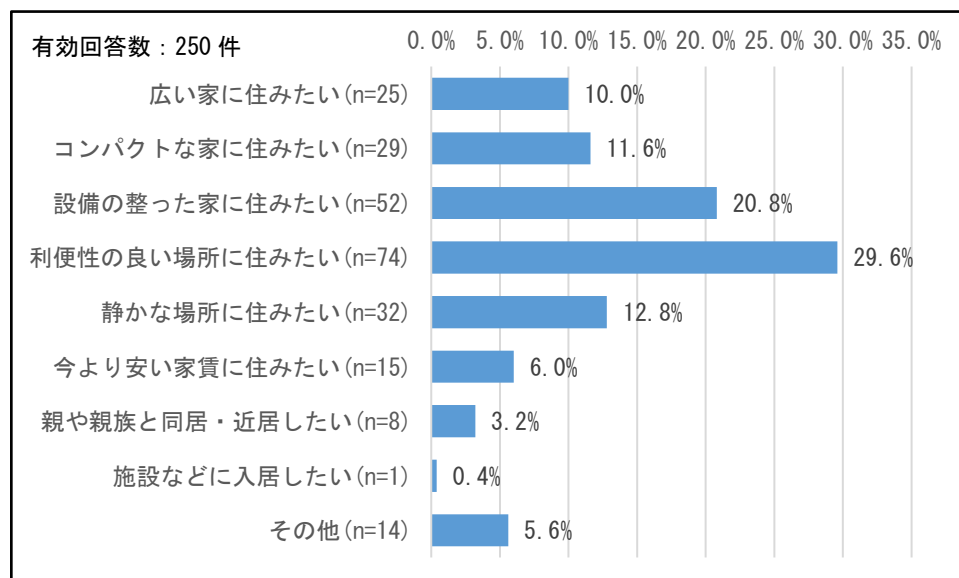


※四捨五入により、合計が 100%にならない場合があります。

設問 18 設問 16 で「③どちらとも言えない」「④転居したい」とお答えいただいた方にお聞きします。
転居したい理由について当てはまる選択肢すべてに○を付けてください。

回答者数 129 人 (有効回答数 250 件) のうち、転居したい理由で最も多いのは、「利便性の良い場所に住みたい (74 件)」の 29.6%、次に「設備の整った家に住みたい (52 件)」の 20.8%、「静かな場所に住みたい (32 件)」の 12.8%の順となっています。

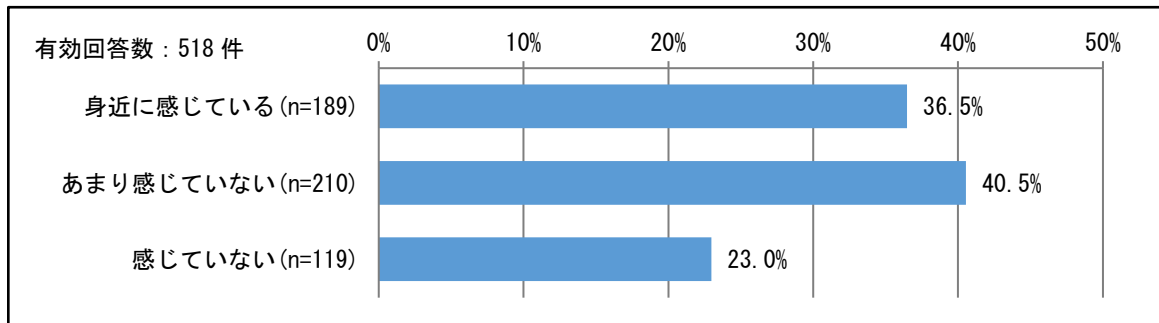
また、「その他」の意見として、日当たりの良い家、広い庭、海外移住などの意見が寄せられました。



※設問 16 で「③どちらとも言えない」と「④転居したい」と回答した方 (142 人) から「無回答」13 人を除外した 129 人を回答者数とし、129 人の意見を 250 件有効回答数とします。

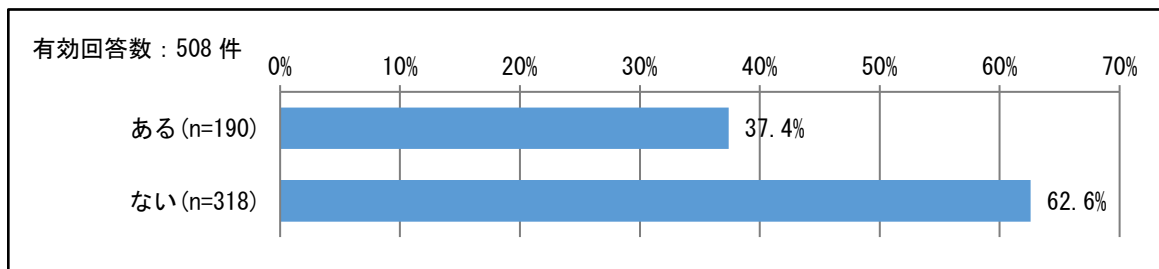
設問 19 近年、空き家問題が話題となっています。身近に空き家問題を感じていますか。

有効回答数 518 件のうち、空き家問題の認識で最も多いのは、「あまり感じていない (210 件)」の 40.5%、次に「身近に感じている (189 件)」の 36.5%、「感じていない (119 件)」の 23.0%の順となっています。



設問 20 ご自宅の周辺で将来、空き家になりそうな建物はありますか。

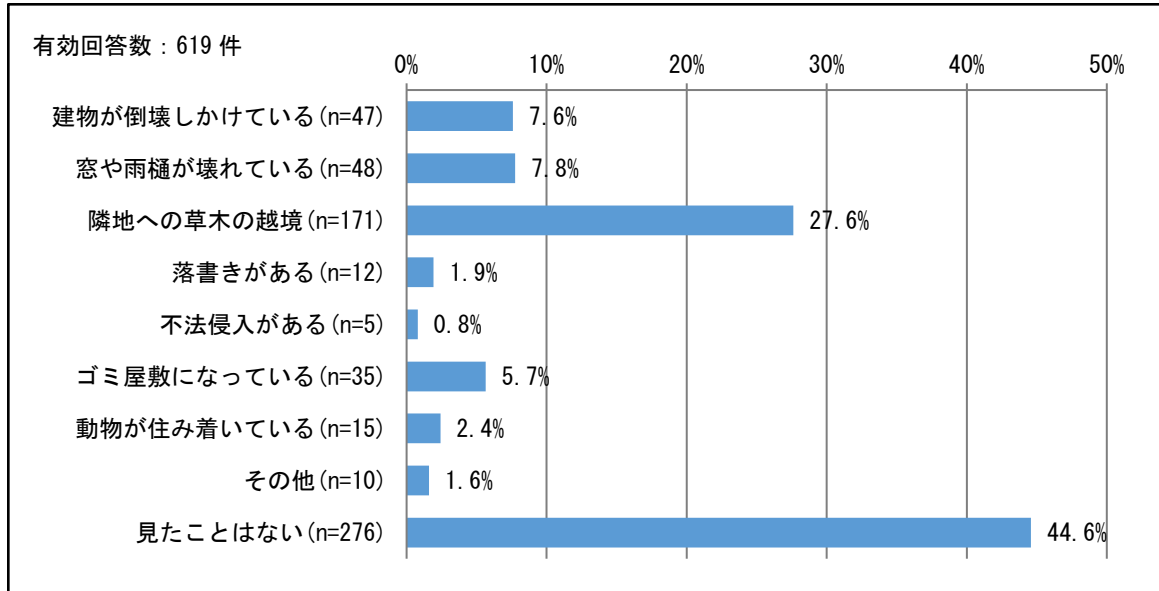
有効回答数 508 件のうち、自宅周辺で将来空き家になりそうな建物の有無について、「ない (318 件)」の 62.6%、「ある (190 件)」の 37.4%でした。



設問 21 町内で周辺の住宅環境に悪影響を及ぼしそうな空き家を見たことはありますか。
当てはまる選択肢すべてに○を付けてください。

有効回答数 619 件のうち、住宅環境に悪影響を及ぼしそうな空き家で最も多いのは、「見たことはない (276 件)」の 44.6%、次に「隣地への草木の越境 (171 件)」の 27.6%、「窓や雨樋が壊れている (48 件)」の 7.8%の順となっています。

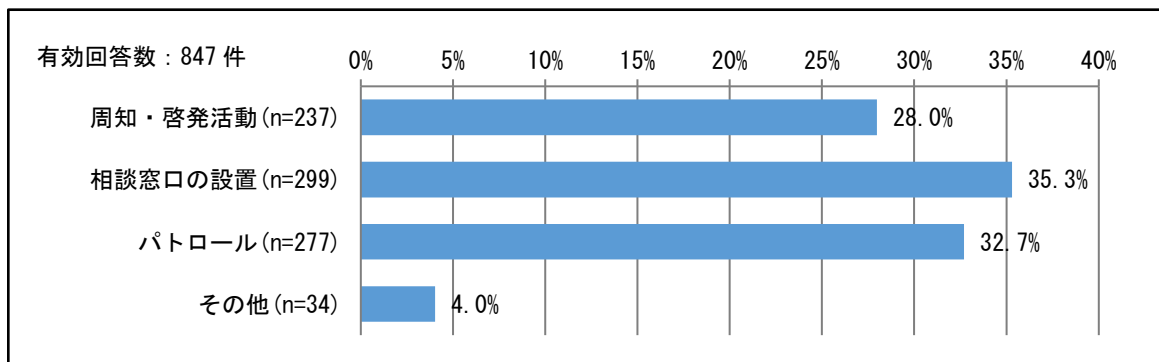
また、「その他」の意見として、ハチの巣、ゴミの放置、放置車両などの意見が寄せられました。



設問 22 町で空き家問題に取り組むうえで、何が有効だと思いますか。
当てはまる選択肢すべてに○を付けてください。

有効回答数 847 件のうち、空き家問題への対策で最も多いのは、「相談窓口の設置 (299 件)」の 35.3%、次に「パトロール (277 件)」の 32.7%、「周知・啓発活動 (237 件)」の 28.0%の順となっています。

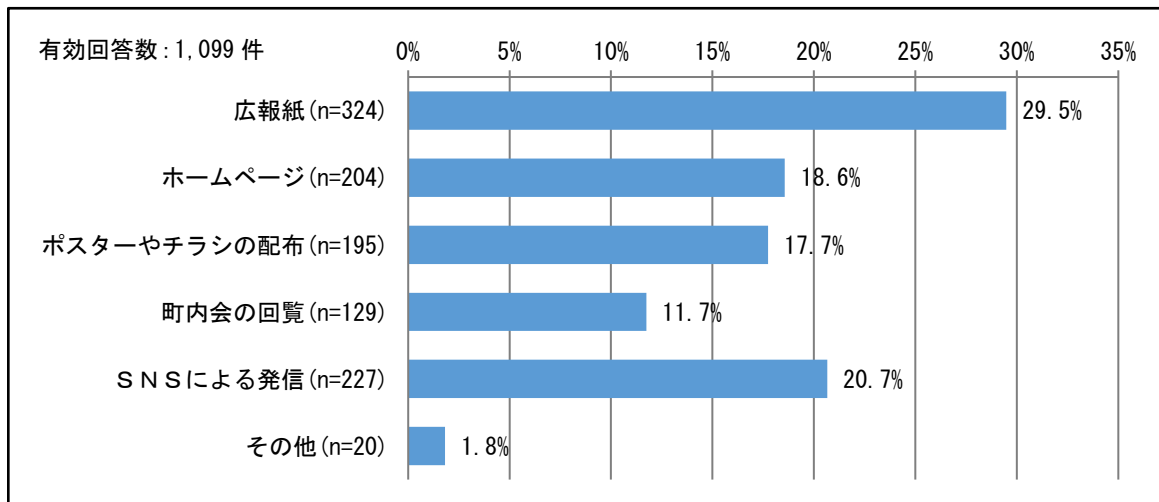
また、「その他」の意見として、空き家バンク、法による強制力などの意見が寄せられました。



設問 23 周知・啓発活動を行う場合、有効な媒体は何だと思えますか。

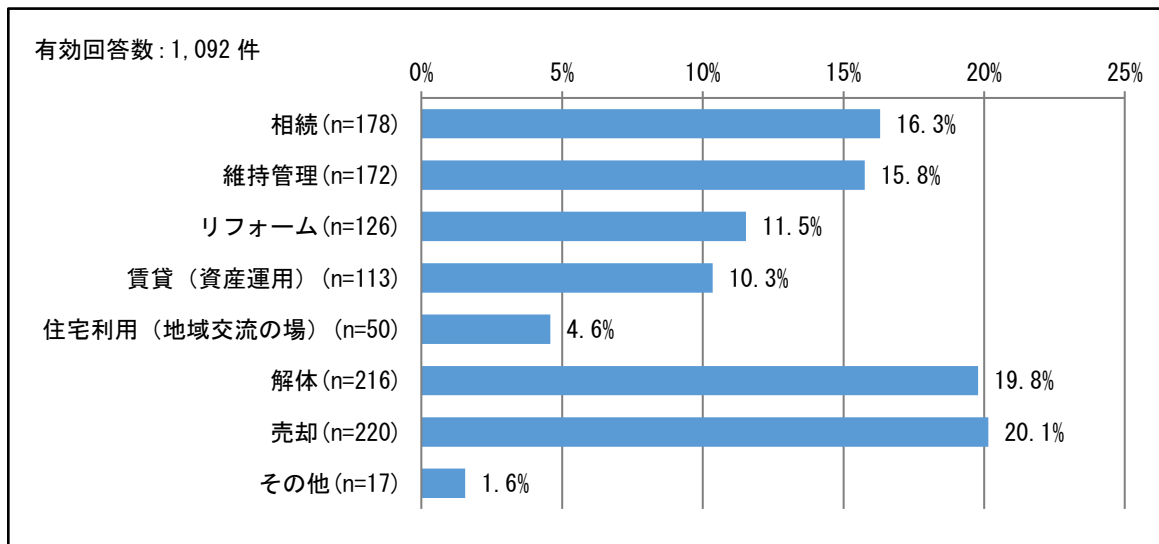
当てはまる選択肢すべてに○を付けてください。

有効回答数 1,099 件のうち、周知・啓発活動の有効な媒体で最も多いのは、「広報紙(324 件)」の 29.5%、次に「SNS による発信 (227 件)」の 20.7%、「ホームページ (204 件)」の 18.6%の順となっています。



設問 24 瑞穂町は NPO 法人空家・空地管理センターと連携し、空き家所有者向けに総合相談窓口 (☎0120-336-366)を設置しています。困りごとがあった際、どのような相談をしたいですか。当てはまる選択肢すべてに○を付けてください。

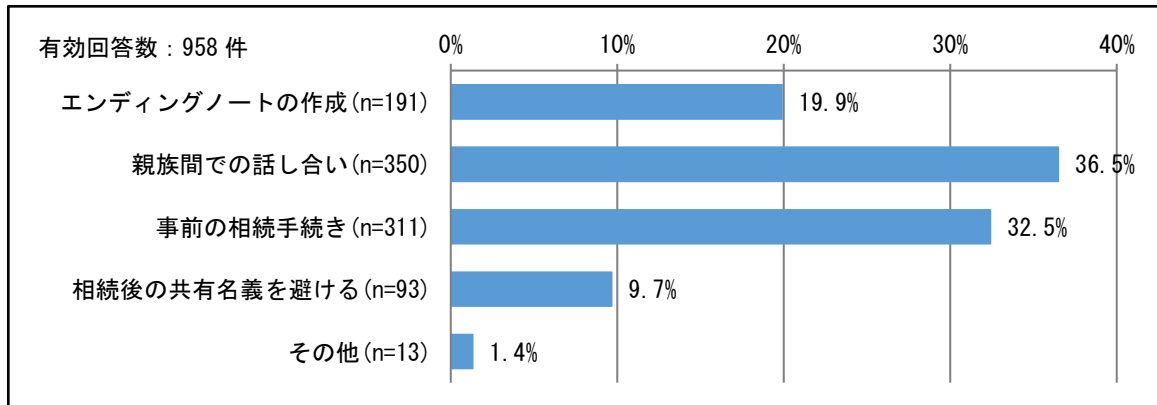
有効回答数 1,092 件のうち、総合相談窓口相談内容で最も多いのは、「売却(220 件)」の 20.1%、次に「解体 (216 件)」の 19.8%、「相続 (178 件)」の 16.3%の順となっています。



設問 25 空き家としない、または、空き家となった住宅を適切に管理していくためには、何が有効だと思いますか。当てはまる選択肢すべてに○を付けてください。

有効回答数 958 件のうち、空き家の適切な管理に対して、最も多いのは、「親族間での話し合い（350 件）」の 36.5%、次に「事前の相続手続き（311 件）」の 32.5%、「エンディングノートの作成（191 件）」の 19.9%の順となっています。

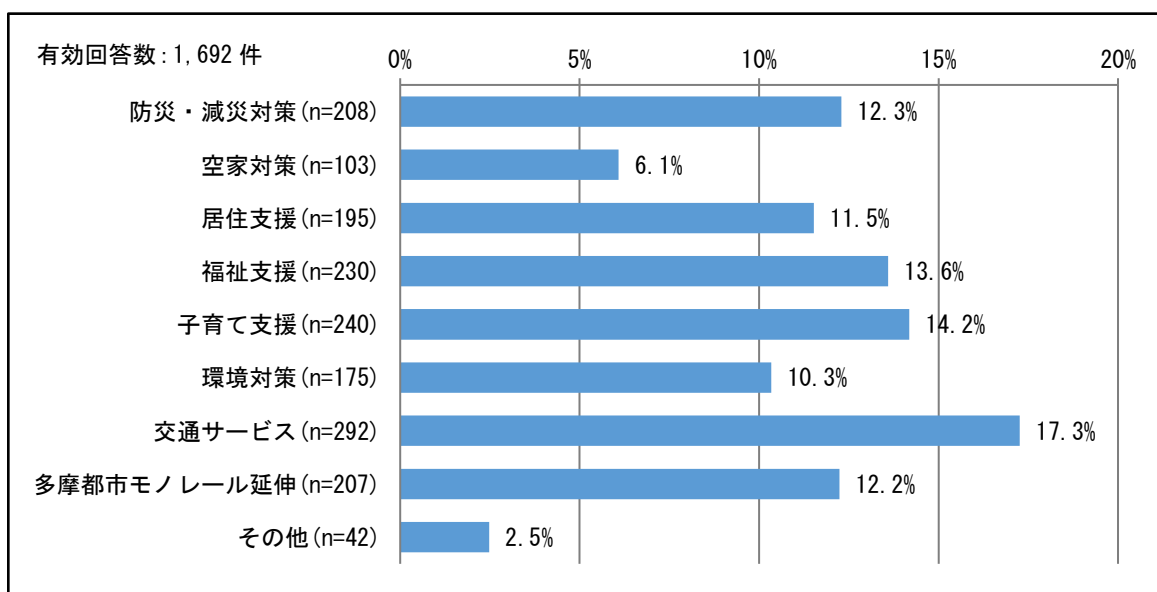
また、「その他」の意見として、解体費用支援などの意見が寄せられました。



設問 26 瑞穂町の今後の住環境(住みやすい環境づくり)を考えるうえで、何が大事だと思いますか。当てはまる選択肢すべてに○を付けてください。

有効回答数 1,692 件のうち、今後の住環境づくりに大事なことで最も多いのは、「交通サービス（292 件）」の 17.3%、次に「子育て支援（240 件）」の 14.2%、「福祉支援（230 件）」の 13.6%の順となっています。

また、「その他」の意見として、タクシー・医療費の無償化、大型スーパーの誘致、買い物支援、住宅街の道路拡幅などの意見が寄せられました。



設問 27 自由意見の記載欄です。ご回答の補足や、住宅施策に関して
ご要望など有りましたらご記入ください。

以下に寄せられた意見の一例を紹介します。

1. 道路幅員が狭く、歩道がないため、高齢者の外出や犬の散歩ができない。
2. 交通の便が悪すぎる。バスもどんどん減っていて、車がないと何もできない。
3. 多摩モノレールに金を使うより、コミュニティバスを維持してほしい。
4. とにかく店舗がない。ザ・モールもなくなり住みづらくなった。
5. 国道 16 号や横田基地の騒音対策を行ってほしい。
6. 児童館など子どもの遊べる場所が少ない。
7. これから外国人が増えれば、生活習慣の違いから、近所トラブルも増えないか心配だ。
8. 昔から町が発展していない。
9. モノレールの延伸を利用して、移住希望者を募ったらどうか。
10. 住宅はどんどん建っているが、駅までの公共交通手段がない。通勤・通学の送迎で駅前ロータリーの混雑が目立つ。

5. 多面的な分析（クロス集計）

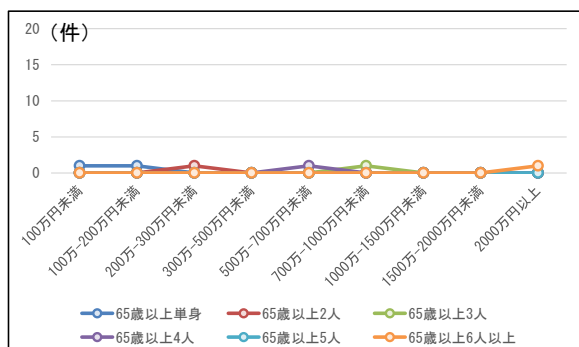
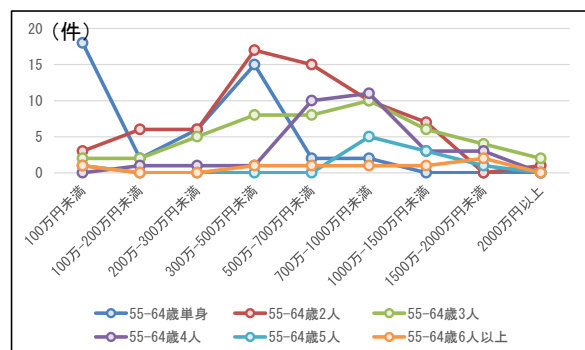
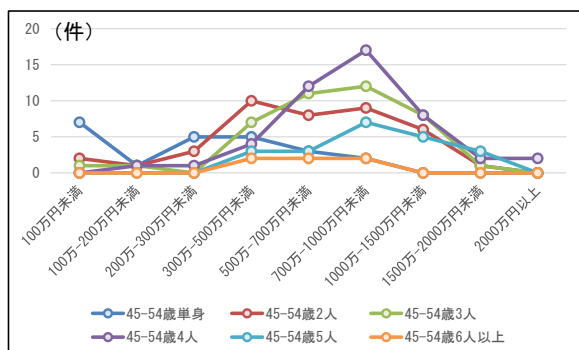
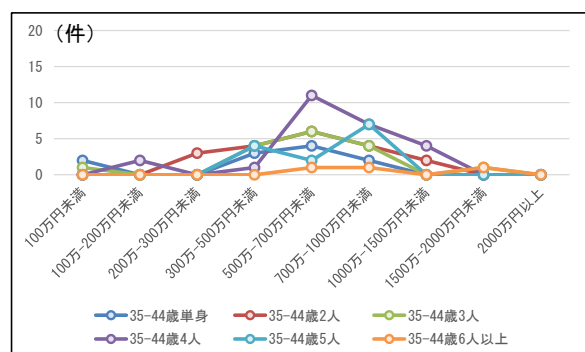
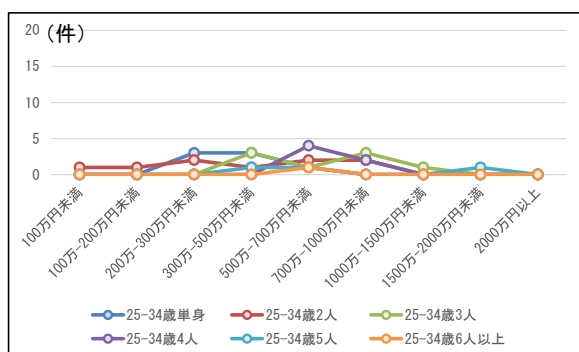
①世帯主の年齢と世帯人数における収入状況（設問2・3・7）

世帯主の年齢と世帯人数における収入状況を分析すると、以下のことがわかります。

- 世帯主が35歳～44歳で3人以上の家族構成では、世帯年収300万円から多くなりはじめ、最も多い構成は、4人家族で世帯年収500万～700万円未満（11件）となっています。また、5人家族では世帯年収700万～1,000万円未満（7件）が最も多い状況です。
- 世帯主が45歳～54歳は就職氷河期世代にあたります。単身世帯で最も多いのは世帯年収100万円未満（7件）であり、単身世帯では年収500万未満にとどまる状況です。家族が3人以上になると300万円以上の世帯が多くなりはじめ、最も多い構成は、4人家族の世帯年収700万～1,000万円未満（17件）となります。
- 世帯主が55歳～64歳で最も多い構成は、単身世帯の世帯年収100万円未満（18件）です。また、2人家族で最も多い構成は、世帯年収300万円～500万円未満（17件）となります。3人～4人家族で最も多い構成は、世帯年収700万円～1,000万円（10件、11件）です。

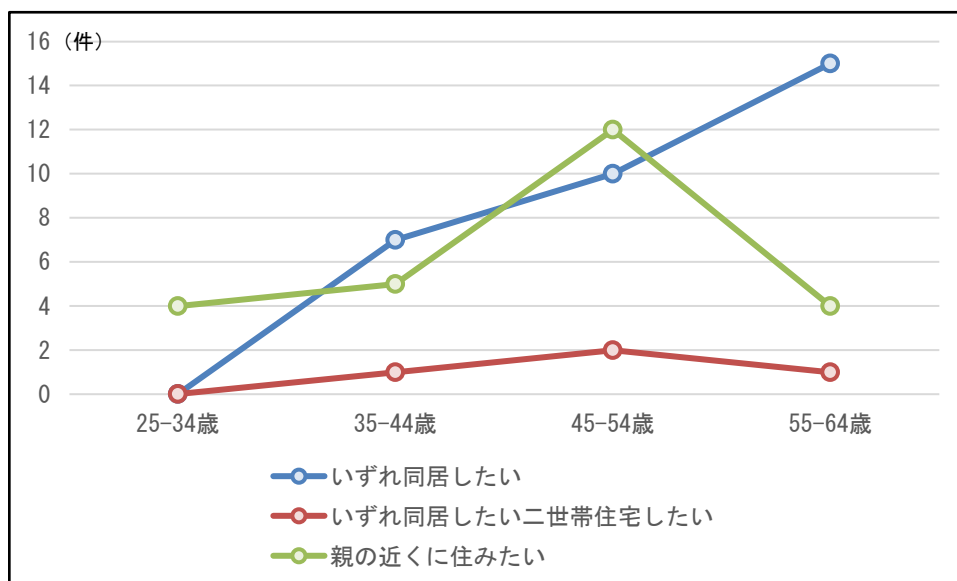
※内閣府が定義する就職氷河期世代は、1974年（51歳）～1983年（42歳）生まれの世代です。

※世帯主25歳～34歳と世帯主65歳以上は、サンプル数が少ないため分析を控えるものとします。



②世帯主の年齢と親との同居・近居の意向（設問 2・6）

世帯主の年齢と親との同居・近居の意向状況を分析すると、以下のことがわかります。
 年齢を重ねるごとに親との同居意向は高まる傾向にありますが、二世帯住宅で同居する意向は低いようです。また、45 歳～54 歳では、同居より近居の意向が高くなっています。



③世帯主の年齢と居住意向（設問 2・16）

世帯主の年齢と居住意向を分析すると、以下のことがわかります。

「住み続けたい」と「転居したい」意向の合計で、転居したい割合を算出すると、世帯主が若い世代（25 歳～34 歳）の転居意向が高く（37.5%）、年齢を重ねるごとに転居の考えは薄れていくようです。また、サンプル数が少ないので何とも言えませんが、55 歳～64 歳で転居意向（16.4%）が若干高くなるのは、世帯主の退職が契機になっている可能性があります。

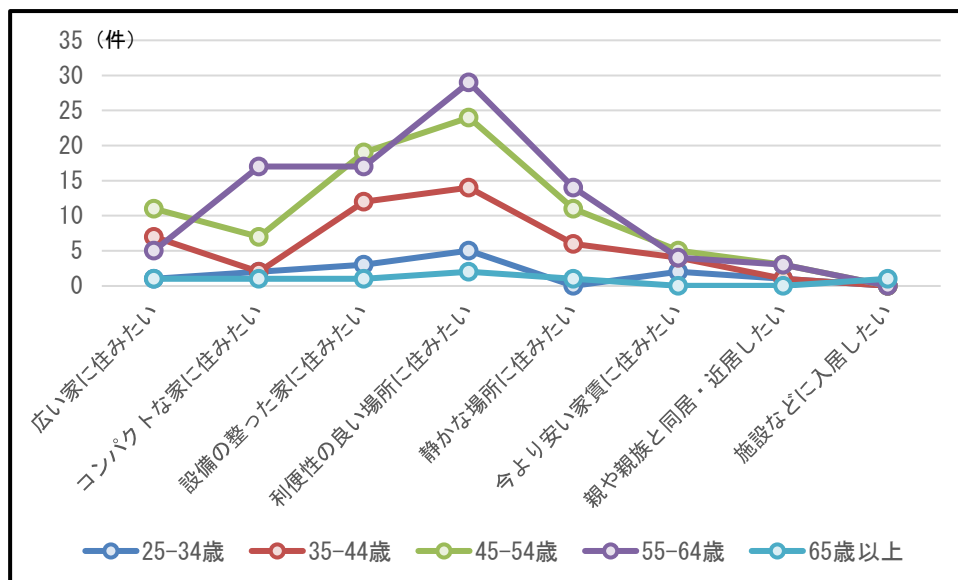
項目	25-34歳	35-44歳	45-54歳	55-64歳	65歳以上
住み続けたい	10	43	87	97	3
転居したい	6	12	15	19	1
合計	16	55	102	116	4
転居したい割合	37.5%	21.8%	14.7%	16.4%	25.0%

※65 歳以上はサンプル数が少ないので分析から除外します。

④世帯主の年齢と転居したい理由（設問 2・18）

世帯主の年齢と転居したい理由を分析すると、以下のことがわかります。

各年齢で最も多いのは、「利便性の良い場所に住みたい」で、その他の転居理由についても大体同じ波形を示しています。この波形のなかで、「55 歳～64 歳のコンパクトな家に住みたい」は、他の年齢よりも意向が高くなっています。これは、年齢から考察して、子育てを終えたり、定年退職によるライフワークの変化が要因であると考えます。



⑤世帯人数と居住面積（設問 3・11）

世帯人数と居住面積を分析すると、以下のことがわかります。

あくまで目安となりますが、住生活基本計画における誘導居住面積水準（一般型）と瑞穂町の居住面積を比較すると、面積水準をクリアする住宅は、単身世帯で 36.5%、2 人世帯で 40.5%、3 人世帯で 20.6%、4 人世帯で 13.9%の状況となっています。

項目	単身	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人以上
25㎡未満	19	1	1	0	0	0
25～30㎡未満	16	8	9	4	0	2
30～40㎡未満	11	24	14	11	5	1
40～50㎡未満	8	16	20	4	7	1
50～75㎡未満	16	29	19	26	8	2
75～100㎡未満	11	28	22	24	9	4
100～125㎡未満	4	14	9	18	10	2
125㎡以上	0	11	13	14	5	5
合計	85	131	107	101	44	17
居住面積水準以上	31	53	22	14	-	-
居住面積水準以上の割合	36.5%	40.5%	20.6%	13.9%	-	-

住生活基本計画における居住面積水準（一般型）

単身	2人	3人	4人	5人	6人以上
55㎡	75㎡	100㎡	125㎡	150㎡	175㎡以上

一般型：郊外や都市部以外での戸建住宅居住を想定

①単身者：55 ㎡

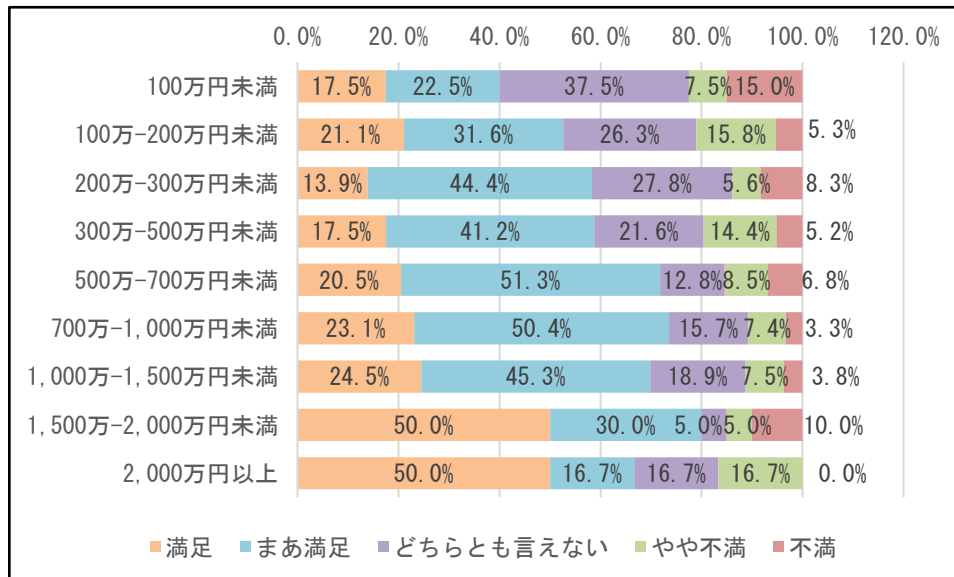
②2 人以上の世帯：25 ㎡×世帯人数+25 ㎡

⑥世帯年収と今の住まいの満足度（設問 7・8）

世帯年収と住まいの満足度を分析すると、以下のことがわかります。

世帯年収が上がるにつれて、住まいの満足度は高い傾向にあります。

なお、世帯年収 100 万円未満では、「どちらとも言えない (37.5%)」と「不満 (15.0%)」の割合がすべての収入階層の中で最も高くなっています。

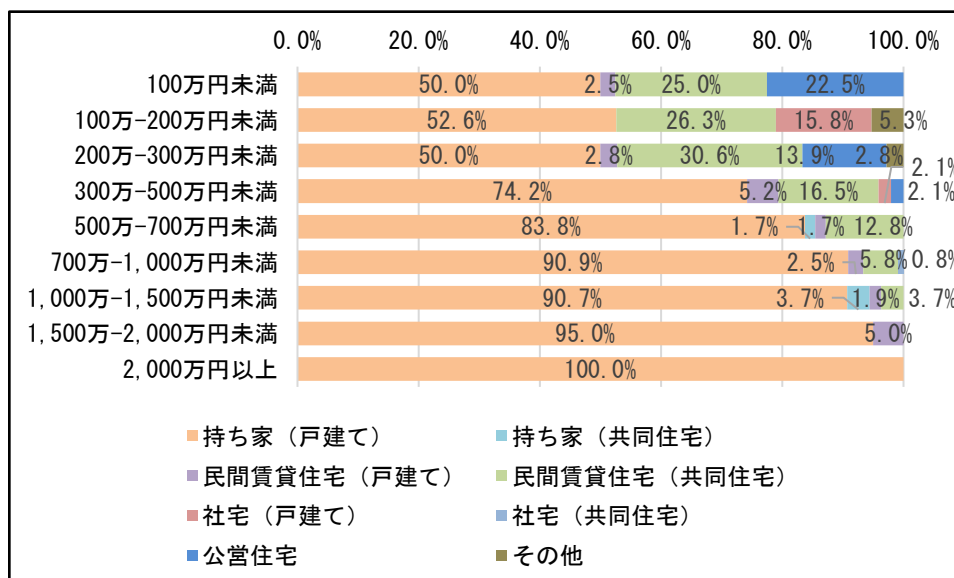


⑦世帯年収と住まい方（設問 7・9）

世帯年収と住まい方を分析すると、以下のことがわかります。

世帯年収が 300 万円以上の世帯から持ち家（戸建て）の割合が高くなります。また、持ち家の場合、共同住宅に住む方は、ほとんどいないことがわかります。

また、世帯年収 100 万円未満の世帯では、他の年収階層に比べて公営住宅に住んでいる方の割合が高く (22.5%)、100 万～200 万円未満の世帯では社宅（戸建て）に住んでいる割合 (15.8%) が高いことがわかりました。



⑧子どものいる世帯の世帯人数と世帯年収（設問 3・5・7）

子どものいる世帯の世帯人数と世帯年収を分析すると、以下のことがわかります。

子どものいる世帯は、世帯人数が増えるにつれて世帯年収も増加傾向にあります。

子どものいる世帯で最も多い世帯は、「4人世帯（62件）」、次に「3人世帯（43件）」、「5人世帯（32件）」の順となっています。

子どものいる2人世帯の年収の中央値は「200万から300万円未満」、3人世帯と4人世帯の年収の中央値は「500万～700万円未満」、5人以上の世帯の中央値は「700万～1,000万円未満」であることがわかります。

※中央値は、年数が低い世帯から積み上げて、世帯数の半数となる年収区分を中央値とします。

※6人以上世帯の年収100万円未満は、特殊サンプルとして中央値から除外するものとします。

